

教育長定例記者会見 会見録

日時：平成30年4月18日 16時00分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・平成30年度第1回公開考古学講座について

質疑事項

- ・発表項目について
- ・松阪あゆみ特別支援学校における給食への異物混入について
- ・新年度の抱負について
- ・部活動ガイドラインについて

発表項目

(教育長) それでは私からは、この「30年度第1回公開考古学講座『三重を掘る』を開催します」について発表します。三重県埋蔵文化財センターは、県内遺跡の発掘調査成果を紹介する、公開考古学講座「三重を掘る」を、年5回開催しています。公開考古学講座は、県民の皆様に、「ふるさと三重」の歴史を伝える機会として、平成19年に始まり、今年で12年目となります。これまで、のべ3,600人の方々に参加していただいています。埋蔵文化財センターの職員が、発掘調査に携わった遺跡について、土器などの実物や写真などを用いながら、発見された様子や調査の成果について、現場でのこぼれ話なども交えながらお話をします。今年度は、昭和63年度から行ってきた中勢道路建設事業に伴う発掘調査が終了しますので、講座の年間を通してのテーマを「中勢道路に関わる遺跡の調査から」としました。これまでの中勢道路関連調査の中から、様々な時代を網羅して、69の遺跡から選りすぐりを選び、5回の講座として開催いたします。

第1回目は、来月5月12日、土曜日の13時30分から15時まで、三重県埋蔵文化財センター嬉野分室学習棟で開催します。嬉野分室は、近鉄伊勢中川駅から徒歩約15分で、無料でご参加いただけます。今回は、「須恵器生産地のお墓事情―西毛谷A遺跡の発掘調査」をテーマに、平成26年から27年に調査を行った西毛谷A遺跡の成果をもとにお話しします。この調査で見つかった約1,200年前のお墓には、県内では7例目となる横穴式木室が作られていました。横穴式木室については2枚目の写真にありますのでご参考にしてください。横穴式木室は木材で部屋をつくり、その部屋を土で覆って小山のようにしたものです。そして、その部屋を燃やして火葬するという、カマド塚となっていました。カマド塚は三重県内でも5例目、場所としては伊勢市の古墳に続いて2カ所目で、全国的にも珍しいものです。講座では、この珍しいお墓に葬られた人々のことも含めて、迫ってみたいと思います。

当日は、遺跡の発掘調査で出土した遺物を会場にお持ちします。講座で聞いた遺物を、実際に目で見て、触って、歴史を感じ、楽しんでいただけるのは、発掘調査を行っている

埋蔵文化財センターの講座ならではのものです。ぜひ多くの方にご参加いただきたいと思
います。こんなふうに触っていただけるのでぜひ。

発表項目に関する質疑

(質) 今回5回の講座ということなんですけども、この第1回以外、全てのテーマを通し
て1番こういうところを県民の方に知ってもらいたいとか思いとかあれば教えてください。

(答) 3枚目にこの5回があるんですけども。

(答 埋蔵文化財センター) 今回中勢道路に係わる遺跡の調査から選りすぐりましたので、
研究テーマとしては特にございません。各時代に、いろんな時代を網羅して69の調査の
中からこれはというものを持ってきましたので、5回とも特だしといえれば特だしでござい
ます。

(質) なんかこの中勢道路っていうエリアならではの特徴とかあるんですか。

(答 埋蔵文化財センター) それは全てを網羅した、まあ道路ですので、いろんな時代の
いろんなものがあります。デパートに近いような感じですね。

(質) 5回ってほしい何時代から何時代までなんですか。

(答 埋蔵文化財センター) 一番古いのが5回目の古墳時代後期、6世紀ぐらいからにな
りますが、それから2回の近世伊勢別街道、江戸時代までありますので、あまり古い時代
は今回ないということになります。

(質) これは当日行けば誰でも参加できる形になるんですか。

(答 埋蔵文化財センター) はい。自由に参加していただけます。

(答) 事前申し込みは?

(答 埋蔵文化財センター) ございません。ただ、会場キャパが50名あまりですので、
ぎゅうぎゅうになる可能性もゼロではない。

(質) 中勢道路は調査はいつからいつまでだったんですか。

(答 埋蔵文化財センター) 現地調査が63年度から始まっております。調査としては今
年度で終了。

(質) 30年間でいいですか。

(答 埋蔵文化財センター) はい。

(質) 69回の選りすぐりということのをさっき聞いたんですけど、69回っていうのはこ
の公開考古学講座の?

(答 埋蔵文化財センター) 中勢道路の遺跡で69、路線に遺跡がありまして、そこを全
部調査いたしましたので、その中から選りすぐりを5つ持ってきたということです。

(質) 69箇所という?

(答 埋蔵文化財センター) 箇所ですね。

(質) 69箇所を30年間にわたって実施したということですね。

(答 埋蔵文化財センター) そうということですね。

(質) 中勢道路はどこからどこまでをつなぐ?

(答 埋蔵文化財センター) 松阪市の中道という交差点から鈴鹿市の北玉垣交差点でいい
と思うんですけど。

(質) 松阪市内から、中勢バイパスのこと?

(答 埋蔵文化財センター) そうです。

(質) 中勢バイパスで良いんですね？

(答 埋蔵文化財センター) 良いんですけど、国土交通省さんは中勢道路と呼んでますので。

その他の項目に関する質疑

○松阪あゆみ特別支援学校における給食への異物混入について

(質) 今年度新しく開校した松阪あゆみ特別支援学校なんですけど、給食への異物混入っていうのが給食の初日から2日連続でということ起きたと思うんですけど、改めて県教委として今後どんなふうな再発防止とかをやっていくかということ聞かせてください。

(答) 報道資料に出ささせていただいたとおり、本日と昨日について調理を行わないものを出しています。それで、改善計画というものを業者に求めましたので、その改善計画を見てきちっと改善、再発防止策がとられているかとか、そういうのをきちっと確認をしたうえで、19日明日ですね、明日から給食を、それが良ければ予定に入ることになっています。

(質) じゃあ、今としては給食室としての調理は19日から再開するということですか。

(答) 今のところは予定です。改善計画が出てきていて、業者から、それを今点検している最中ですので、それが良ければさせていただきます。

(質) 明日からやるんだったら今日中にそれは判断されるってということですね？

(答) そうです。

(質) 外部の業者さんが調理してらっしゃるといことなんですけど、例えば他の県内の学校とかこの業者さんがやってるところって何校ぐらいあるんですか。

(答) 何校ぐらい？校数わかりますかね？

(答 特別支援教育課) 6校でございます。

(質) あゆみを含めて6校？

(答 特別支援教育課) そうです。

(質) 他の学校ではトラブルとか今までなかったんですか。

(答) ないです。初めての場所で初めてだったということで、ずいぶんきちんと点検したところだったんですけども、こういうことが起こってしまったことについて、ほんとに今、こちらから委託をしておりますので、非常に重く、保護者の皆さんにも心配をおかけしましたし、関係者の皆様にもご心配をおかけしましたので、私からもお詫びをさせていただきたいと思います。

(質) 今日中に判断と質問ありましたけども、その計画がゴーにならなかった場合は明日別の対策を打たなきゃいかんわけですよね。何時ごろに判断されるんですか。

(答) 今日ですから、1時間か2時間の間にはきちんと判断したいと思っております。学校長がいろいろ聴き取って、やってるといふふうにも聞いておりますので、今私の方にはこの段階では、そこまで情報が入ってきておりませんので、それは学校に確認をさせてもらいたいと思います。

(質) 後刻なんらか連絡はいただけますか。

(答) そうですね。課長いいですか。再開するってなれば、その1文だけでもいいですか。それをもし再開するってなれば。

(質) 記者室に。

(答) その方が良いですか。そしたらそのように約束させていただきます。

(質) もし再発防止策、具体的なものがあればそれも紹介していただけると。

(答) わかりました。課長いいですか。

(質) その当日、あれ金曜日ですかね。一番最初に異物混入、これ学校給食初日だったということだそうですけども、そのときにいただいた資料には再発防止策も明記されていたにもかかわらず、今回また改めて起こってしまったわけですよね。それについてじゃあそうすると当初の再発防止策というのはですね、甘かったということなんですかね。これどのように捉えていらっしゃるんですか。

(答) そうですね、確かに、ふたつというかねじが落ちていたというのが3件もあったということで、どうしてもそちらの方向、設備とかそういうところに注意が集中してしまったというのは事実だと思っております。始まったばっかというのは何の言い訳にもならないことですので、ほんとにすべからく、いろんな面から見て、こういうことが起こらないように危機管理の観点から仕事を進めていくということが本来の姿でしたので、ほんとに起きてしまった後にまた起きてしまったということは大変重く受け止めているところで

す。

(質) そのうえで、今日提示される再発防止策についてはですね、完全なものだと、今後起こらないと保証できるものなんでしょうか。

(答) 保証できるほどにきちっと確認をさせていただいていますので、二度と起こさないようにという気持ちでやっていきたいというふうに思っています。

(質) もう1点。金曜日の発表がですね、9時前頃にFAXが来たんですね。FAXだけの連絡であったわけなんですけれども、正午前、11時55分の発生と書いていただいて、9時間後の公表。この時間差について教育長どう捉えていらっしゃるのでしょうか。

(答) 子どもたちを無事に帰路につかせると、そちらの方に仕事集中したということは伺ってますけども、それにしてもやっぱり遅すぎたことについては、学校が始まったばかり、開校して初めてということはあるものの、ほんとにあってはならないことですので、取り返しのつかない、命にかかわることではなかったのが良かったんですけども、それについてはきちんと学校にも再度話をしましたので、このことが起こらないように、これだけじゃなくて、危機管理の点から留意するようというところで指示をしています。

(質) 公表が遅かったという指摘されたということなんですかね。

(答) 公表が遅かったということについては当日からこんなに遅くなった理由はなぜだということも言っておりましたので、それも十分に、ほんとになぜこんなに遅くなったのかというのは報道からご指摘を受けるまでもないところでございますので、大変失礼なことをしました。

(質) 教育委員会に連絡があったのは何時ごろなんですかね？

(答) 教育委員会に夕方だったと思います。

(質) だいたい何時頃ですか。

(答) 4時ぐらい？4時か5時でしたね。

(質) その4時間、5時間のスパンがあるというのは、危機的、こういう緊急事態ですね、例えば教育委員会の支援が必要になるかもしれないとか、同種事案がないかを検討、調査しなきゃいけないとか、教育委員会にも影響が及ぶし、監督する立場として、私ら報道に対する9時間の遅れというのはともかく、教育委員会への4時間、5時間の遅れというのはいかがですか。

(答) そうですね。危機管理の意識を全職員がもっときちんと持って、事に当たらなければならなかったというのはほんとに大反省でございます。たまたま自分のとこで調べて、全て出てきたし、健康に被害がなかったということを確認した上でだったので遅かったと思うんですけども、こんなことほんとに二度とあってはならないと学校の方にも伝えてますので、二度とこんなことが起きないようにしたいと思います。

(質) 健康被害がなかったかの確認であったりとか、対応というのは、県教委の連絡と同時に行えることですよ？そういうふうに認識していらっしゃるんですか。

(答) 一報だけでもこっちに入ってたと思うんですけども、何の言い訳にもなりません。初めての学校の運営であったと、それはほんとに理由にはならないのは分かっておりますので。

(質) じゃあ、その県教委に対する報告の遅れも含めて指導されたということによろしいですか。県教委から校長の方へということによろしいですか。

(答) はい。課長、県に報告が入った時間、私4時とか5時とかって言いましたけど間違いないですか。

(答 保健体育課) そうですね。

○新年度の抱負について

(質) 新年度になりましたので、抱負の方をお願いします。

(答) 4月になりました。まず、インターハイを成功させること。三重県へ試合に来て、競技しに来て「よかったな」と思ってもらうのと、周りの保護者の方とか関係者の方も見えるので、そういう意味では、「三重県っていいとこやな」と思ってもらえるような、そんな「おもてなし」も含めてできたらなと、大成功に終わりたいというのが、準備も含めてひとつです。それからあとは、いじめ防止条例をつくりました。教育委員会としてそういう政策的な条例、今までは手数料とか、何とかの委員の条例とか審議会とか。そういった政策的にいじめを防止すると、しかも社会総がかりでやっぺいこうというような政策的な条例をつくったのは多分初めて。初めてとまた言うともあれですけど、多分、例にないことだと思いますので、それを、それこそ子どもも含めて180万県民の方にお知らせをして、みんなでいじめをなくしていこうと、本当に社会総がかりで取り組んでいってもらえるようなことにしたいというのが2つ目です。それからもう1つは、新学習指導要領ができて、道徳というのが新たに教科として始まったし、あるいは英語がまた教科化ということが始まりますので、その先行実施も含めて、三重県も英語でスタートラインで遅くならないように、そんなふうにもいろいろ考えてやっていきたいなと。大きく言うとそれくらいです。それからもう1つは、学力向上については、昨年度の成績がちょっと残念な結果に終わったものですから、これまでも三重県の子が不得意だった「割合」の問題だとか「図形」の問題だとか、そういうことにも力を入れて、学力が少しでも身につけるよ

うにやっていきたいなという、それくらいですかね。それが今思っている単純な、純粋な思いです。

○部活動ガイドラインについて

(質) 新年度に関してひとつ質問なのですが、部活動ガイドラインが新しく導入されますけど、ちょうど今年はインターハイもあるということで、各学校、多分スポーツはかなり力を入れると思うんですけど、その中でそういう、活動時間とか休養日をどうやって徹底させていくのかというところの対策を。

(答) 部活動ガイドラインの大もとが、子どもたちの健全な成長というところから始まっていますので、それを理解いただいた上で、各学校で運営計画も立ててやっていってもらいますので、十分に顧問の先生とか、あるいは子どもたちとも、保護者とも話をしながら決めていってほしいなというふうに思っています。

(質) インターハイがあるということで、そういう規則だけでもっと練習したいというような、そんなふうを考える学校も当然あるのかなというふうには思ってしまうんですけど、そのあたりってどなたがチェックされるんですか。

(答) それは、昨年度の議論の段階から、いろんな方面から、それからいろんな関係者から生の声としてお聞きをしております。でも、先ほど申し上げましたように、子どもの健全な成長というのが基本にありますので、それを考えた上で、たとえば言うとインターハイどうでもいいというふうに関心するとまずいんですけど、その上で、インターハイにもがんばってほしいし、国体の若い子どもたちにもがんばってほしいというような考えでいます。非常にバランスが難しいかもわかりませんが、インターハイがあるから部活はもういいとか、部活のガイドラインが最優先なんでインターハイの成績はどうでもいいとか、そういう極論ではなくて、非常にバランスは難しいかもわかりませんが、インターハイでがんばることと、それから子どもたちの成長のためにガイドラインも守ってほしい、バランスよくしていってほしいなというのが、私の気持ちです。

(質) 学校側が立てる運営計画というのは、県教委としてチェックはされていられるのでしょうか。

(答) 計画は県教委に出てきますよね。

(答 保健体育課) 県教委には出てきません。

(答) 出てこない。市町教委？

(答 保健体育課) 学校の校長先生が部活動の活動方針というのを立てていただいて、それに従って顧問の先生が月間計画なり年間計画なりを立てていただくという形になります。

(答) 学校の中でPDCAを回していくということですね。

(質) 県教委として、そういうガイドラインが守られているかみたいな確認とかチェックとかされるのではないですか。

(答) 既存の調査というのがありますので、その中でたとえば運営計画を立てているかどうかという状況にあるかというような、ちょっとまだ項目までは設定しておりませんが、そういうことを既存の実態調査の中に一項目とか増やして聞いていくというようなことを今考えています。

(質) いつぐらいにやられる予定ですか。

(答 保健体育課) 6月から7月くらい。

(答) 6月から7月の調査ですと、やっぱり運営計画をつくったかどうかというようなレベルかもですね。

(質) わかりました。ありがとうございます。各社さんいかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

(答) ありがとうございます。また今年度もどうかよろしく願いいたします。

(以上) 16時22分 終了